インフルエンザ感受性調査（平成13年度）

亀山　妙子　　三木　一男　　山西　重機
Taeko KAMEYAMA　Kazuo MIKI　Shigeki YAMANISHI

Ⅰ　はじめに

インフルエンザ感受性調査は，県単独事業として実施した。今回は，県内の保健所及び５医療機関の小児科，県立医療短大に協力をお願いし，０歳～64歳の男女240名について調査を実施した。採血時に問診表によるワクチン歴調査と血清使用許可の署名も併せてお願いした。

Ⅱ　材料及び方法

2001年７月から12月までの間に採血した０歳～64歳の男女240名の血清を検体とした。

2001／2002シーズンの感受性調査用抗原は，A／MOSCOW／13／98（H1N1），A／NEW CALEDONIA／20／99（H1N1），A／PANAMA／2007／99（H3N2），B／JOHANNESBURG／5／99（山形系統株），B／AKITA／27／2001（ビクトリア系統株）の５種類を用いて赤血球凝集抑制試験（HI）をおこなった。血球は，５％ニワトリ赤血球を用いた。

Ⅲ　結果及び考察

2001／2002シーズンのワクチン株は，次の３抗原である。

１．A／New Caledonia／20／99（H1N1）
２．A／Panama／2007／99（H3N2）
３．B／Johannesburg／5／99

有効防御免疫の指標とされる抗体価40以上の抗体保有率をみると，A／New Caledonia／20／99については，５～19歳で約50～70％と高かったが，０～４歳・20～29歳で30％前後，30歳以上の年齢群では15％以下と低かった。A／Panama／2007／99については，５～14歳で70％強と高く，20歳代では約20％と最も低かった。B／Johannesburg／5／99については，15～19歳の60％弱が最高で０～４歳・60歳以上では５％以下とほとんどの人が抗体を保有していなかった。2001／2002シーズンのワクチン株に選定されていなかったが，今シーズンのB型の主流となったビクトリア系統株のB／Akita／27／2001については，15～19歳で10％強，20歳代群で30％強，30歳代群で20％強，その他の年齢群では５％以下と極めて低かった。特に14歳以下・60歳以上ではほとんどの人が抗体を保有していなかった。

インフルエンザウイルスに対する年代別抗体保有状況

	年齢群 抗体価	０～４	５～９	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60以上
A/Moscow/13/98	≦10	32%	68.1%	100%	100%	100%	85.7%	90%	54.5%	62.5%
	≦40	10%	50%	100%	100%	82.9%	71.4%	65%	27.2%	25.1%
A/NewCaledonia/20/99	≦10	38%	63.6%	88.8%	79.3%	53.7%	33.3%	50%	36.3%	12.5%
	≦40	34%	54.5%	72.2%	51.7%	26.8%	9.5%	15%	9%	6.2%
A/Panama/2007/99	≦10	40%	90.9%	94.4%	86.2%	75.6%	71.4%	75%	54.5%	93.8%
	≦40	32%	77.3%	72.2%	51.7%	22%	38.1%	40%	31.8%	62.5%
B/Johannesburg/5/99	≦10	18%	72.7%	83.3%	89.7%	82.9%	52.3%	60%	31.8%	0%
	≦40	4%	40.9%	27.7%	58.6%	42.9%	19%	30%	22.7%	0%
B/Akita/27/2001	≦10	0%	4.5%	5.5%	44.8%	63.4%	42.8%	15%	18.1%	12.5%
	≦40	0%	0%	0%	13.7%	34.1%	23.8%	5%	4.5%	0%
検体数		50	22	18	29	42	21	20	22	16